

新技術と社会づくりに関する特別委員会 議事次第

令和7年5月22日(木)
午後1時30分～
於：第5委員会室

1 開 会

2 中間報告

3 委員会活動のまとめ

4 その他

5 閉 会

新技術と社会づくりに関する特別委員会 出席要求理事者名簿

【総合政策環境部】	
※ デジタル政策推進課長	後 藤 幸 宏
脱炭素社会推進課長	中 埜 博 之

【商工労働観光部】	
商工労働観光部副部長 (産業創造担当)	山 本 太 郎
商工労働観光部理事 (情報基盤担当)	浅 沼 真 也
産業振興課長	安 達 雅 浩
※ 染織・工芸課企画参事	里 村 佳 代
※ 文化学術研究都市推進課長	芝 田 雅 貴
人材育成課長	浅 利 賢 司

【農林水産部】	
経営支援・担い手育成課参事	山 川 彰 宏
流通・ブランド戦略課参事	藤 田 信 也
農産課長	瀬戸谷 隆 治
※ 林業振興課長	矢 谷 陽 治

【建設交通部】	
※ 指導検査課長	水 谷 真

(計 13 名)

※ 議事内容に応じ、必要な理事者を適宜追加

※ 新任理事者

令和7年5月 日

京都府議会議長 石 田 宗 久 殿

新技術と社会づくりに関する特別委員長 中 島 武 文

新技術と社会づくりに関する特別委員会中間報告書

京都府議会議事規則第46条第2項の規定により、令和6年5月府議会臨時会閉会後から現在に至るまで、本委員会が調査及び研究してきた状況について、別紙のとおり中間報告いたします。

(別紙)

新技術と社会づくりに関する特別委員会中間報告書

1 本委員会の設置目的

AI、IoTなどの先端技術を活用した新産業の創造や京都産業の多様性を生かし、人材確保策をはじめ様々な分野の課題の解決を図るとともに、脱炭素社会の実現に向けた施策について調査し、及び研究する。

2 本委員会の活動状況

(1) 委員会の開催について

- 令和6年6月7日、第5委員会室において、関係理事者から所管事項に係る事務事業概要について説明を聴取した。また、今期の委員会運営方針について協議を行った。
- 令和6年6月26日、第5委員会室において、「本委員会の調査事項に関連する施策等について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取し、これに対する質疑を行うとともに、今後の調査・研究テーマについて委員間討議を行った。
- 令和6年10月1日、第5委員会室において、株式会社エネコートテクノロジーズ 代表取締役社長 加藤 尚哉 氏を参考人として招致し、「脱炭素社会の実現に向けた新技術の活用について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、ペロブスカイト太陽電池を活用した脱炭素社会の実現に向けた取組について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和6年12月17日、第5委員会室において、日東製網株式会社 技術部総合網研究課 課長 細川 貴志 氏及び伊根浦漁業株式会社 代表取締役 倉 幹夫 氏を参考人として招致し、「スマート水産業の推進について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、ユビキタス魚探などAIを活用した技術や京都府内での活用状況について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和7年3月17日、第5委員会室において、ミツフジ株式会社 代表取締役社長 三寺 歩 氏を参考人として招致し、「伝統産業を活用した新産業の創出について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、西陣織技術を活用したウェアラブルIoTソリューション事業について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和7年5月22日、第5委員会室において、_____

(2) 管内外調査の実施について

以下の取組について調査を行った。

○調 査 日：令和6年8月22日

調 査 先：株式会社浜田 京都P Vリサイクルセンター

〔於：八幡市文化センター〕（八幡市）

調査事項：太陽光パネルのリサイクル・リユースについて

株式会社浜田は、2015年から太陽光パネル事業を開始し、2020年に、使用済み太陽光パネルの適切な分別・適正処理のための工場として「京都P Vリサイクルセンター」を八幡市に開設した。

同センターでは、使用済みの太陽光パネルについて、まずジャンクションボックスとアルミフレームを外し、ホットナイフ技術で板ガラスとセル/E V Aシートを分離することにより、パネルの製造コストの大きな割合を占める板ガラスを割らずに回収でき、ガラス原料として再利用している。また、割れのある太陽光パネルについては、P Vリサイクルハンマーで、割れガラスとセル/E V Aシートに分離し不純物を取り除いた上で、ガラスを主とする二次製品等に再資源化している。

また、同社はリユース事業にも取り組んでおり、年式が10年以内のものなど、いくつかの条件をクリアした使用可能な中古の太陽光パネルを買い取り、国内外へ販売している。リユースすることで、太陽光パネルの価格を下げることによる導入コスト削減や、太陽光パネルの製造における環境負荷の低減などが期待される。

同社では2022年に太陽光リユース・リサイクル協会を設立した。今後、大量廃棄が予想される太陽光パネルの適切なリユース・リサイクルを促進するため、多様な機関と連携、協働して法整備や新たな技術の研究開発などの取組を進めていくとのことであった。

○調 査 日：令和6年8月22日

調 査 先：広島大学デジタルものづくり教育研究センター（広島県東広島市）

調査事項：社会実装に向けた研究開発活動と高度産業人材を育成する新たな拠点について

広島大学デジタルものづくり教育研究センターは、デジタルイノベーションを担う人づくりと産学の創発的研究開発を推進する新たな拠点として、2019年に設立された。同センターでは、教育、研究、社会貢献の3つのミッションを掲げ、先進技術の社会実装に向けた取組を行っている。

同センターでは、単独企業では解決困難な課題に対し、異分野の専門家が交流して研究などを行うアンダーワンループ体制を採用しており、各課題に対する共創コンソーシアムを設置し、延べ74社・機関、1,144名が参画している。現在は、広島

県の中核産業である自動車に関するコンソーシアム3つに加え、令和5年度からカーボンニュートラルに関するコンソーシアム2つを設置している。

また、従来においては、企業内でデジタル人材の育成を行っていたことから、会社独自の技術のみを学ぶ閉鎖的な状況であったため、同センターでは、様々な企業が集結し、多様な技術に触れることができる多様な人材育成に力を入れている。それぞれの研究分野において、地元企業や学生が共同研究を行うことで、企業独自の技術や大学が持つ知見の交換・共有が可能となるほか、それをきっかけに技術者が大学へ入学、学生が地元企業へ就職するなど、人材・知見の好循環を生み出す仕組みを作っている。

今後は、県内企業に限定していた共創コンソーシアムに県外企業も参加できる働きかけをはじめ、人材育成の仕組みの拡大を行うなど、デジタル人材の創出や先進技術の社会実装に向けた体制をより強化していくとのことであった。

○調査日：令和6年8月23日

調査先：広島県議会（広島県広島市）

調査事項：土木とDXを組み合わせたD o b o Xの取組について

広島県では、建設分野におけるデジタル化やデータの利活用などに課題があったことから、2021年に建設分野におけるDXの取組を取りまとめた広島デジフラ構想を策定し、その取組の1つとして「D o b o X」の運用を2022年6月から開始した。

D o b o Xは、公共土木施設等に関するあらゆる情報を一元化・オープンデータ化し、外部システムとのデータ連携を可能とするシステム基盤である。災害リスク情報や土木施設情報など約100種類のデータが搭載されており、これまで個別に管理されていた情報を集約することで、利便性が向上するとともに、各地域の防災アプリや観光アプリに活用されるなど、新たなサービスの提供等が実現できるようになった。

平成30年7月豪雨を受けて、防災分野におけるD o b o Xの活用を進めており、道路や砂防など、各部署が所有するデータを重ね合わせることで、きめ細かなリスク情報を提供し、より安全な避難経路の確保などにつなげている。また、地域の防災リーダーにもD o b o Xを活用してもらうことにより、地域の防災力の強化につなげている。

D o b o Xの運用開始以降、広島市をはじめとする各市町や、国土交通省、周辺の県とも連携してデータの拡充を進めており、D o b o Xのダウンロード数も月14万回を達成するなど、需要も非常に高くなっている。今後は、県民へのさらなる普及や、デジタルデバイドの解消などに努めていくとのことであった。

○調 査 日：令和6年8月23日

調 査 先：積水化学工業株式会社（大阪府三島郡島本町）

調査事項：フィルム型ペロブスカイト太陽電池について

積水化学工業株式会社は、次代の中核事業（ネクストフロンティア）開発のため、新規事業の創出に取り組んでいる。主に環境・エネルギー面などの社会課題解決に資するイノベーションの創出に注力しており、2013年ごろから、液晶に関する開発・製造技術を活用し、フィルム型ペロブスカイト太陽電池に関する技術研究を開始した。

フィルム型ペロブスカイト太陽電池は、軽量で柔軟な次世代の太陽電池で、発電層であるペロブスカイトが非常に薄く、同社独自の封止技術により、1㎡当たり約1kgという、従来のシリコン系太陽電池の約15分の1の重さを実現した。また、曲げることができる柔軟性も有しており、シリコン系太陽電池では設置不可能だったビルの壁や体育館などの軽量屋根にも設置可能であることから、カーボンニュートラルをより推進していくための重要な技術となっている。

同社は2025年の事業化を目指し、様々な施設に設置し実証を進めているが、発電効率の高い製品を安価で大量生産する方法の構築や、製品が軽く柔軟性があることから、従来のように固定することができないため、安定した設置ができないこと、法律により戸建て住宅にはフィルム型ペロブスカイト太陽電池が設置できないなどの課題が残っている。今後は、関係機関と連携しながら、残された課題の解決に向けて取組を進めていくとのことであった。

3 本委員会の所管に係る主な動き

- 令和6年6月、丹後織物工業組合により、丹後ちりめんの精練・検査・出荷などの工程を見学できるオープンファクトリーや丹後織物の製品をはじめとするプロダクト、地域産品などを販売する直営ショップなどを整備した「TANGO OPEN CENTER」が開設された。
- 令和6年7月、国内外の起業家・投資家などが一堂に会し、直接交渉による投資・協業先・人材などの獲得や、各分野の最新動向の把握と多様な人材の交流を契機とした新ビジネス創出を促進する、国際スタートアップ・カンファレンスである「I VS 2024 KYOTO」を開催した。
- 令和6年10月、けいはんなオープンイノベーションセンターにおいて、スマートシティをテーマにした日本最大級の講演・展示・交流イベント「京都スマートシティエキスポ2024」及び京都の食文化や食材と食の最先端技術との融合を目指す「京都フードテックエキスポ2024」を同時開催した。
- 令和6年12月、けいはんな学研都市エリアを中心に、運転手不足などの様々な地域交通の課題に広域的に取り組むため、交通事業者や市町における次世代モビリティ

ィの導入の一環として、京田辺市において自動運転E Vバスの実証運行を行った。

- 令和7年2月、国内外の脱炭素テクノロジー関係者（スタートアップ、大企業、研究者など）が一堂に会し、新たな交流と共創を目的とする国際カンファレンスとして「Z E T－ s u m m i t 2 0 2 5」を開催した。
- 令和7年2月から3月にかけて、自動運転や配送ロボットなどの新たなモビリティによるサービスの社会実装を加速させるべく、精華町において自動運転車両や小型配送ロボットの協調運行に関する実証を行った。
- 令和7年4月、高い研究開発力と豊かな歴史文化資源に恵まれたけいはんな学研都市エリアで、「ロボット・アバター・I C T」「ウェルビーイング」「スタートアップ」「サイエンス&アート」のフェスティバルを中心にけいはんな学研都市のもつ、高い研究開発力と豊かな歴史文化資源を最大限に発揮した様々なコンテンツを展開し、未来社会に向けたポテンシャルを世界に向けて発信する「けいはんな万博2025」が開幕した。

4 残された主な課題

本委員会の設置目的に掲げられた諸課題について、調査及び研究を進めた結果、なお引き続き調査及び研究を要する次のような課題が残されていると考える。

- 府民に向けた脱炭素社会実現に向けた取組の周知
- 多様な京都産業の連携・融合による持続可能な産業社会の創造
- 新技術を活用した生産性の向上や人材不足への対応

新技術と社会づくりに関する特別委員会 活動状況 <付録>

(令和6年5月～令和7年5月)

年 月 日	区 分	主 な 内 容
6. 5. 24	委 員 会	1 委員長の選任 2 副委員長の選任 3 副委員長の順位
6. 7	正副委員長会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 本日の委員会運営
6. 7	委 員 会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 所管事項に係る事務事業概要 4 今期の委員会運営方針 5 今後の委員会運営
6. 14	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
6. 26	委 員 会	1 所管事項の調査 「本委員会の調査事項に関連する施策等について」 2 委員間討議 「今後の調査・研究テーマについて」 3 閉会中の継続審査及び調査 4 今後の委員会運営
8. 22 ～23	管 内 外 調 査	▷ 株式会社浜田京都 PV リサイクルセンター〔於：八幡市文化センター〕 ▷ 広島大学デジタルものづくり教育研究センター ▷ 広島県議会 ▷ 積水化学工業株式会社
9. 19	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
10. 1	委 員 会	1 所管事項の調査 「脱炭素社会の実現に向けた新技術の活用について」 参考人：株式会社エネコートテクノロジーズ 代表取締役社長 加藤 尚哉 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
10. 3	管 内 調 査	▷ 京都スマートシティエキスポ2024 オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
12. 6	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
12. 17	委 員 会	1 所管事項の調査 「スマート水産業の推進について」 参考人：日東製網株式会社 技術部総合網研究課 課長 細川 貴志 氏 伊根浦漁業株式会社 代表取締役 倉 幹夫 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営

年 月 日	区 分	主 な 内 容
7. 2. 1	管 内 調 査	▷ 京都環境フェスティバル2025 オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
2. 4	管 内 調 査	▷ ZET-summit2025 オープニング (行催事等委員会調査)
3. 13	正副委員長会	1 確認事項 2 定例会中の委員会運営 3 今後の委員会運営
3. 17	委 員 会	1 確認事項 2 所管事項の調査 「伝統産業を活用した新産業の創出について」 参考人：ミツフジ株式会社 代表取締役社長 三寺 歩 氏 3 閉会中の継続審査及び調査 4 今後の委員会運営
4. 13	管 内 調 査	▷ けいはんな万博2025 開会式 (行催事等委員会調査)
5. 22	正副委員長会	1 臨時会中の委員会運営
5. 22	委 員 会	1 中間報告 2 委員会活動のまとめ ※発言内容は別紙のとおり

委 員 会
正副委員長会

7回
6回

管内外調査
管 内 調 査

1回（2日）
4回

新技術と社会づくりに関する特別委員会 管内外調査実施状況

1 管内調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 10. 5	▷ 京都スマートシティエキスポ 2023 オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
	6. 2. 3	▷ 京都環境フェスティバル 2024 オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
	2. 6	▷ ZET-summit 2024 オープニング (行催事等委員会調査)
	2. 6	▷ ZET-summit 2024 交流会 (行催事等委員会調査)
6	6. 10. 3	▷ 京都スマートシティエキスポ2024 オープニングセレモニー
	7. 2. 1	▷ 京都環境フェスティバル2025オープニングセレモニー
	2. 4	▷ ZET-summit2025 オープニング
	4. 13	▷ けいはんな万博2025 開会式

2 管内外調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 8. 28 ～29	▷ 福井県議会 ・ 福井県における生活D X推進の取組及びデジタルデバイド対策について
		▷ まちづくり株式会社Z E Nコネクト ・ レベル4 自動運転による移動サービスの取組状況について ・ 施設視察
		▷ 公益社団法人富山県農林水産公社スマート農業普及センター ・ スマート農業の推進について ・ 施設視察
		▷ アルハイテック株式会社 ・ アルミ廃棄物を活用した水素エネルギーの普及について ・ 施設視察
6	6. 8. 22 ～23	▷ 株式会社浜田京都 PV リサイクルセンター〔於：八幡市文化センター〕 ・ 太陽光パネルのリサイクル・リユースについて ・ 現地視察
		▷ 広島大学デジタルものづくり教育研究センター ・ 社会実装に向けた研究開発活動と高度産業人材を育成する新たな拠点について ・ 施設視察
		▷ 広島県議会

		・ 土木と DX を組み合わせた DoboX の取組について ▷ 積水化学工業株式会社 ・ フィルム型ペロブスカイト太陽電池について ・ 施設視察
--	--	--

行催事等に係る委員会調査の結果概要について

商工労働観光部

行催事等名	主催者名 (招待者名)	会 場 (市区町村名)	年 月 日
けいはんな万博2025開会式	けいはんな万博2025運営協議会	けいはんなプラザ (相楽郡精華町)	令和7年4月13日 (日)